

## 四谷の

# 千枚田だより



第 145 号

「千枚田」。  
今日、ここに  
念願のシン  
ポジウムが  
開催できた

## 全国棚田(千枚田)サミット開催十周年記念シンポジウム報告

九月五日、四谷の千枚田・連谷小学校体育館を会場に連谷地域住民、講師、来賓の方々総勢二百十名が黄金色に染ったTシャツを着用、盛大に行われた。

開催趣旨、目的は「チラシ」や「四谷の千枚田だより」百四十四号でお知らせしたとおりである。

・現地見学では、十年間の保安全管理状況や獣害被害の現状、生きものと共生した体にやさしい、コメづくりの実践、また、横浜ゴムのビオトープの取り組みなどを見学した。

・シンポジウム開催に先立ち、奥三河東栄町を拠点として国内外ツアーや各地で公演する太鼓集団「志多ら」の迫力に満ちた和太鼓演奏にアンコールまで飛び、住民もコラボレーションに加わるなど、華やかな開催となった。

・主催者挨拶 サミット開催から十年、耕作者、連谷地区の皆さんと共に地域の宝として、また、市、県の顔として揺るぎない地位を築いた

ことを参加して頂いた皆さんと喜びを分かちあいたい。

・来賓挨拶 穂積新城市長様・峰野県議様・農林水産事務近藤所長様、衆議院議員今枝様から、それぞれの立場における支援、協力のご挨拶があった。

・基調講演 中島峰広先生

棚田百選、サミットのルーツ、また、四谷の千枚田は日本三大傾斜地の棚田であり、傾斜特地と中山間地直接支払制度の再検討を促すお話があった。

・車座会議 開催メインであるこの会議では保存会、地域の課題、諸問



現地見学会



志多ら



車座会議



交流懇親会

題を議論する場として幾つかの「テーマ」を設け、議論した。

○ 高齢化と後継者の問題

○ 中山間地域等直接支の再検討

○ 支援者の受け入れ(小作人・オーナー制度)を考える

○ 獣害被害対策(耕作意欲の喪失)

○ 地域の宝、市、県の顔としての

地域住民・行政の捉え方

○ 閉校と千枚田の位置付け

穂積市長(ペネラー)は直払いの四期協定中止について、御苦労をかける耕作者に五年の制約は確かに厳しい、市として前向きに考える。と再発足を促がせた。田口ペネラーから坂折棚田の現状報告、高野ペネラーからは住民を巻き込んだNPO法人化、中島先生からは特地・中山間地直接支払の活用などがアドバイスされた。住民側では原田公民館長、

岡山校長先生から、閉校後の千枚田の位置付け、校舎活用が提案された。足元に位置する百姓の声をもつと聞き、議論する場であるにも関わらず、制約された時間内に収めることができなかったことを司会者の不徳の至りと、お詫び申し上げます。

・交流懇親会

田舎の「むら」で地域住民が一堂に会し(会費制)、忌憚のない意見を交換し合う機会は少なく、平成十七年開催した第十一回棚田サミット以来で、減多やたらに無いことでもあり、耕作者も参加者も美酒と旨肴に嬉々とした表情が何われ、あつちでもこつちでも「ああだ、こうだ」と結構雄弁が聞かれた。少子高齢化、過疎化、限界集落、閉校と時代の先端が漂うこの地において、久々に活気がみられた。それも、これも「四谷の千枚田」のおかげと、感謝しきりである。

「八雲だんご」の鈴木社長さんにお声をかけたところ、イベントカーで乗り付け、参加者全員に千枚田米の「八雲だんご」を惜しげもなく大判振る舞い、むらの衆も大喜びで頂いた。

### 景観環境整備

八月二十九日、保存会(二十一名出席)は東三河南部に大雨警報が発令する中、シンポジウム開催に備え「ふれあい広場・千枚田入口、沿道」の草刈り作業を実施した。



### テレビ放映

八月十七日、東海テレビ「スイッチ」の番組の中、前回放送した水鏡のシーンと青々と茂る棚田をドローンにより空撮、両者をかぶせた映像が放送された。

### 奥三河高原体験モニターツアー

八月二十一日、奥三河地域雇用創造協議会は名古屋圏を中心におとなが楽しむ手軽な田舎 奥三河高原

### 山里の魅力創造社

新城駅と四谷の千枚田  
を結ぶ無料臨時観光バス

日程 9/13 20 27

10/4 11 の各日曜日

行程 10:00 新城駅発

10:45-12:00 千枚田

12:15-13:15 山びこの丘

14:00 新城駅着

「愛知県では実際に現地の魅力を体験できる都市部発着のバスツアーを年間を通して三河山間地に運行する」



体感ツアーと題して募集。参加者三十名は「四谷の千枚田で人と水と生き物の共生観察」を(舜)の指導・説明に興味深く聞き入った。  
昼食は棚田っ娘自慢の「棚田米五平餅」をおいしい、美味しいと、大喜びであった。

### 敬老会

九月十三日、連谷会館主催の敬老会が行われた。

びっくりこいたことによあ、この村にやあ八十才以上の「もみじマーク」が五十七人もいる。いらんことを考えると二軒に一人の勘定になる。ちなみに小学生は三人で、三八軒に一人の割だ。今日も二十九人が出席した。写真で見るとかぎり、皆んな、元気で、はつらつとしている。



毎年、記念写真を撮ることが暗黙

の了解になっている。敬老人の多くから「シンポジウム」を有難うさま。善かったぞん。年寄りには力はないが、知恵はあるで、協力できることは、言っておくれん。と肩を叩かれた。

### 連谷地区大運動会

九月二十日(日)、午前八時四十分

【雨天 九月二十七日(日)】

今年度の運動会は、伝統ある連谷小学校最後の運動会です。学校職員はもとより、各種役員、保護者、区民の皆さんには、できるだけ多くの方々に参加して頂き、最後の年にふさわしい、活気ある、思い出に残る運動会にしたいと思います。

大会スローガン

仲間との絆 有難う連谷小

### 今後の予定

- ・ 九月十七日、豊橋調理製菓専門学校 校の稲刈り及び地域料理の実習
- ・ 九月二十日、連谷地区運動会
- ・ 九月二十九日、海部土地改良区(水土里ネット)視察
- ・ 十月一日、連谷小稲刈り
- ・ 十月六日、東海キヨスク会(豊橋駅内の商店等の出展者代表会)二十名
- ・ 十月十日、ほの国自然ソムリエ学校 三十名(年内三回)

行 平成二十七年九月二〇日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
文 責 小山舜二